



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2020年7・8月
第335号

病院だより第335号（2020年7・8月号）

発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報・公開講座委員 今井 敦
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

CONTENTS

- 診療センターのご案内
- 内科系診療センター 内科のご案内
- 飲み込みが気になる方の食事について
- フェイスシールドを製作しました
- 七夕 ～短冊に願いを込めて～
- 2020年6・7月の診療統計

藤が丘病院呼吸器センター

センター長 鹿間 裕介



センター長
呼吸器内科診療科長
鹿間 裕介



呼吸器外科診療科長
神尾 義人

藤が丘病院消化器センター

センター長 田中 邦哉



センター長
消化器・一般外科診療科長
田中 邦哉



消化器内科診療科長
長濱 正亞

藤が丘病院呼吸器内科と呼吸器外科はこの度、藤が丘病院呼吸器センターとして内科・外科が一体となった診療体制に変わりました。

昨年秋より北部病院から神尾義人准教授が呼吸器外科診療科長として、また昭和大学病院より鈴木隆特任教授が藤が丘病院に戻ってこれら精力的に呼吸器外科手術を行っています。呼吸器疾患はCOPDや喘息、間質性肺炎、感染症などの内科的疾患から肺癌や気胸、膿胸などの外科的疾患等多岐にわたっています。一人の患者さんがこれらの病気を重複して持っていることも多々あり、治療する側にもそれに応じた subspecialty で多様な対応が必要となります。これまで呼吸器内科・外科はカンファレンスはもとより、病棟も一緒に連携できていたと自負しております。若い研修医や専攻医にとっても呼吸器疾患を内科・外科の両面から学ぶことは有益であると思います。今後呼吸器センターとなり一つの診療部門としてさらにより良い診療を目指して頑張っていきたいと思っております。

また、藤が丘病院の良いところの一つとして内科各科の横つながりがあり、今後も他の診療科との連携を保ち他病院にない藤が丘病院独自の呼吸器センターを創り上げて行きたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

藤が丘病院消化器センターのセンター長を拝命しました田中邦哉と申します。令和2年4月より消化器内科と消化器・一般外科の2診療科が合同して消化器センターとして診療・治療を開始することとなりました。

これまで消化器内科と消化器・一般外科で連携し診療してまいりましたが、今回のセンター化に伴い、両科の協力体制がより密接なものとなっています。

これに伴い当院に受診される患者さん、あるいはご紹介いただく近隣の先生方には、内科・外科の区別なく消化器系の疾患であれば消化器センター宛てとしてご受診、ご紹介いただくことが可能となっています。

外来業務での協力体制はもちろんのこと、入院時においても病棟内で内科・外科合同でのカンファレンスを通じて診療および治療方針を決定していくといった体制で臨んでおります。治療前検査、内科的治療、外科的手術、治療後通院など一貫してセンターとして責任を持って対応致します。

内科疾患なのか外科疾患なのか悩まれることなく、是非安心して消化器センターにご受診・ご紹介頂きたく存じます。よろしくお願い致します。

藤が丘病院循環器センター

センター長 田中 弘之



センター長
心臓血管外科診療科長
田中 弘之



循環器内科診療科長
鈴木 洋

この度、昭和大学藤が丘病院循環器センターは、より安全に最適の治療を提供するという目的で循環器内科と心臓血管外科が統合され生まれました。

対象疾患は狭心症、心筋梗塞などの虚血性心疾患、弁膜症、心不全、不整脈、胸部大動脈瘤、解離、腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患、静脈血栓症、肺梗塞など多岐にわたっております。急性期は救命センター、ホットラインから、慢性期には関連のリハビリ病院と連携し、心臓リハビリ施行後の自宅退院を目指しております。治療としては、カテーテルを用いた虚血性心疾患、末梢動脈疾患の治療、あるいは心房細動などのアブレーションによる内科的治療。外科的なoff pump冠動脈バイパス、形成を中心とした弁膜症手術、メイズ手術、解離、動脈瘤に対するopen手術のみならず、ステントグラフト内挿術など、より効果的で、低侵襲な治療を施行しております。

内科、外科合同で綿密なカンファレンスを集中治療室では毎日、病棟では週2回行い、各患者さんにとって内科、外科の垣根を超えた最適となる治療を提供すべく日々努力しております。

今後もこの良好なチームワークで一層良質な医療提供に努めてまいりますので、皆様方にはご指導、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

藤が丘病院脳神経センター

センター長 寺田 友昭



センター長
脳神経外科診療科長
寺田 友昭



脳神経内科診療科長
馬場 康彦

本年度より、脳神経外科、脳神経内科が合体して脳神経センターとしてすべての脳、神経疾患に対応することになりました。

脳神経外科は、従来通り脳血管障害に対する血管内治療を中心に脳腫瘍、頭部外傷、三叉神経痛、顔面けいれんなどの機能的疾患に対応しています。特に脳血管障害に対しては、通常の動脈瘤以外にフローダイバーターを要する大型動脈瘤、摘出術困難な脳、脊髄動静脈奇形、耳鳴り、出血等で発症した硬膜動静脈シャントなどの高難度症例を数多く手がけています。センターとして全スタッフ中に脳神経血管内治療学会認定指導医、専門医計7名を有し、センター長の寺田は血管内治療経験総数が4000例を超えており、日本を代表する血管内治療のエキスパートの一人です。

脳神経内科の馬場は神経変性疾患を専門としています。特にパーキンソン病診療に関しては、診断や治療において高い実績、経験、技術を有しており、横浜市北部医療圏における基幹病院としての役割を担っています。

当脳神経センターは、24時間、365日、すべての脳、神経疾患に対応しております。

藤が丘病院こどもセンター

センター長 池田 裕一

この度、昭和大学藤が丘病院こどもセンター長を拝命しました池田裕一(いけだ ひろかず)です。平成7年に昭和大学医学部を卒業し、藤が丘病院で初期研修、神奈川県立こども医療センターで専門研修を受け、平成30年に小児科診療科長に就任しました。



センター長
小児科診療科長
池田 裕一

こどもセンターは現在、外来診療をメインに6名体制で診療を行っており、小児科専門医4名、腎臓病専門医2名が在籍しております。

私の専門は腎臓・泌尿器疾患ですが、総合小児科医として感染症や呼吸器疾患など種々の診療も担当しております。

小児の排尿障害は県内外から患者さんを積極的に受け入れ、全国屈指の診療実績を有しています。また、内分泌疾患を専門にしている医師も3名在籍しており、小児の糖尿病や甲状腺疾患、低身長症などは県内有数の症例数を誇っております。

今後は、地域の医療機関との連携をより密接にして、こどもの病気の診断、治療を行い、大学病院としての医学教育や臨床研究などを通じて、こどもの健やかな成長に寄与したいと考えております。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

藤が丘病院内科系診療センター 内科

診療科長 小岩 文彦

藤が丘病院では今年度センター化に伴う診療科の再編によって新たに内科系診療センターが配置され、その中に内科が新設されました。これまで独立して診療していた血液内科、腫瘍内科・緩和医療科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科が内科として統合されました。内科の構成として、血液、腫瘍・緩和医療、腎臓、糖尿病・内分泌・代謝の4つの診療科に加えて新たに、リウマチ・膠原病が新設され、合計5つの診療科が所属しています。診療体制はこれまでと変わりなく、各診療科がそれぞれの専門分野の外来、入院診療を担当します。



内科系診療センター
内科診療科長
小岩 文彦

今回新設されたリウマチ・膠原病はこれまでは腎臓内科が担当していましたが、今後はリウマチ関連疾患など膠原病に関する疾患の専門診療に取り組むことになりました。リウマチ・膠原病の疾患は腎臓領域に関連した合併症を認めることも少なくありませんので、これまでと同様に腎臓科も連携して外来、入院診療に当たります。

これからも地域の診療に貢献できるように医療機関と連携を図って地域医療の発展に尽力いたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

飲み込みが気になる方の食事について

藤が丘リハビリテーション病院 栄養科 小嶋 綾乃

「誤嚥性肺炎」という言葉を耳にしたことはあるでしょうか。誤嚥(ごえん)とは、食べたものが食道ではなく、気管に入ってしまうことをさします。さらに細菌が繁殖し、炎症を起こしてしまうことで誤嚥性肺炎へつながります。食べ物だけではなく唾液でも発症することがあり、ご高齢の方々をはじめ、肺炎の多くが誤嚥に関連するともいわれています。

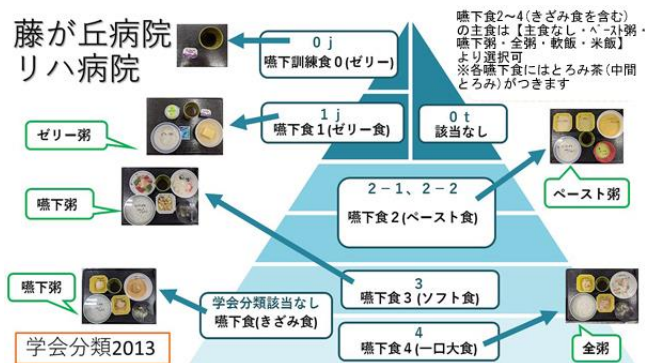
誤嚥を防ぐためには、食事時の姿勢をはじめ、食べやすい食品選びと調理法の工夫も重要です。一般的には、とろみのないサラサラとしたもの、水分の少ないパサパサしたもの、粘り気が多いベタベタしたもの等は注意が必要なことが多くあります。

例えば、パサつきやすいじゃがいも・ゆで卵はマヨネーズを加えてポテトサラダにすることで、口の中でしっとりまとまりやすくなります。また、ばらけやすいひき肉は肉団子やハンバーグにしたり、そばろあんにすることで食べやすさにつながります。ほかにも、同じ食材であっても焼く・炒めるといった調理法よりも、煮ることでやわらかく仕上がるなど、少しの工夫で食べやすくすることができます。また、食後にはしっかりと口腔ケアを行い、口の中を清潔に保つこともとても大切です。

藤が丘病院・リハビリテーション病院の栄養科では、リハビリテーション科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、言語聴覚士とともに、嚥下食について何度も話し合いを重ねてまいりました。4月から嚥下食のリニューアルを実施し、より患者さんひとりひとりの状態にあった食事を選択できるようになりました。

上記に伴い、昭和大学附属病院間の転院のみならず、地域病院・施設への情報提供の際にも、より正確に、わかりやすく食事内容をお伝えすることができるようになりました。

今後も美味しく・安全な食事を皆さまに提供できるよう、各附属病院との情報共有をはじめ、給食受託会社との連携を図ってまいります。



フェイスシールドを製作しました

今、世界中で新型コロナウイルスが蔓延しており、いつまでこの状態が続くのか、いつ元の生活に戻るのか、不安な日々を毎日送られていることと思います。そんな中、感染を防止するマスク・フェイスシールド・ガウン等、感染対策用防具が不足するといった事態になり、クオ

七夕 ～短冊に願いをこめて～

リテマネジメント課より防災センターにフェイスシールド製作の依頼がありました。

この様な依頼は珍しくはありませんが、感染対策用となると話が違います。製作にあたって材料の選別、作成手順などに関して防災センタースタッフ一同アイデアを持ち寄り、試行錯誤しながら作業を行いました。シールド面はラミネートフィルム、おでこにあたる部分は建築資材用スポンジ、頭に固定するのはゴム紐を使用し、リハビリテーション病院防災センタースタッフとも協力して作業にあたりました。

シールド面のラミネートフィルムは、何種類かテストを行ったところ、あまり安価な物では透明度が悪く失敗することもありました。頭に固定するゴム紐に関しては、各所在庫が少なく入手が困難でした。

フェイスシールドの製作手順については、昭和大学の他の附属病院との間で情報共有をしたところ、藤が丘病院バージョンが採用されました。まさか人生の中でフェイスシールドを作るとは思っておらず、貴重な経験をさせていただきました。

この先、新型コロナウイルスが収束することを心より願うばかりです。

（藤が丘病院 防災センター 小久保 憲一）



七夕を迎えるにあたり、今年も藤が丘病院・リハビリテーション病院ともに笹飾りを設置いたしました。今年は患者さん同士の接触をなるべく避けるために短冊の記入ブースを設けず、代わりに短冊回収BOXを設置いたしました。設置期間の6月29日～7月7日まで職員や患者さんなど多くの方々に願いを込めた短冊を作成していただき、色とりどりの賑やかな笹飾りになりました。気の緩められぬ日々が続くなかで、新型コロナウイルス感染症の終息や、平穏な生活の回復を願う短冊が多く見受けられました。先の見通しが立たない状況ですが、どうか引き続きご自愛ください。皆様の願い事が叶いますよう、ささやかながら祈っております。



（藤が丘病院管理課 大内 裕愉）

診療統計 2020年6月・7月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2020年6月	2020年7月	2020年6月	2020年7月
外来患者数	20,946人 (805.6人)	22,846人 (913.8人)	3,822人 (147.0人)	4,213人 (168.5人)
入院患者数	12,073人 (402.4人)	13,877人 (447.6人)	4,173人 (139.1人)	4,492人 (144.9人)
紹介率	75.5%	72.6%	80.1%	72.8%
逆紹介率	86.2%	82.4%	94.1%	104.2%

《 広報・公開講座委員会委員 》

- | | | | | | | |
|-------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|
| 今井 敦 | 原田 浩史 | 佐々木 春明 | 市川 度 | 小岩 文彦 | 中田 土起丈 | 黒木 優一郎 |
| 川手 信行 | 西村 栄一 | 泉 紀子 | 高木 睦子 | 佐藤 郁子 | 山寺 志保 | 東 哲士人 |
| 岡部 圭吾 | 齊藤 あずさ | 和田 洋一 | 小泉 春樹 | 山田 大暉 | 高橋 良治 | (順不同) |